

教科科目横断型授業(2・3年生)

「阿倍仲麻呂…遣唐使と文学」

12月1日

国語科・地歴公民科

「遣唐使の歴史的意義や阿倍仲麻呂について学んだうえで、彼をめぐって残された文学を味わう。」



「Who should celebrate on our money?」

12月12日

英語科・地歴公民科

紙幣の顔になにを求めめるのか、それぞれの異なる価値観を基に、どのように選ばれたのかを考える。2024年に5000円札に使用される津田梅子さんの生い立ちと彼女が、現代日本に与えた教育への意義や効果についても考える。



「英語落語」

2月16日

英語科・地歴公民科

日本の文化の一つである漫才と落語について、日本史の観点から学び、実際の落語を英語で行うことで、英語による表現の向上を図る。



出前講義(2年生)

2月21日

出前講義は、研究者による講義を受講することで、最先端の科学について理解を深めるために行われています。今回は、JOGMECの大岡さんと井手さんに講演していただきました。鉱物の調査で実際に行かれた現地でのお話や調査方法、世界の金属資源がどのように経済発展を支えているのかなどを教えてくださいました。事前に陸上鉱石や海底鉱石などの見本を送ってください、生徒は実際に手に取り観察することができました。重さや色など特徴の違う鉱石に触れることができ、とても有意義な時間になりました。



「金属資源講話」

独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構(JOGMEC)
金属企画部企画課担当調査役
(兼任)金属企画部 未来人材育成リーダー 大岡 隆氏
資源探査部探査第1課 井手 健斗氏



<感想>



地理の授業などで資源やエネルギーについての授業を受けたので、今日の講話と結びついて面白かったし、理解しやすかったです。希少金属の消費量は、化石燃料由来のエネルギーを使うときよりも再生可能エネルギーを使うときの方が多いいことに驚きました。

これまで全く知らなかった JOGMEC の仕事内容や金属の役割、現状などをたくさん知ることができる貴重な講話が聞けてとてもワクワクしました。単に高度な技術や機械を用いることだけでなく、様々な工程や長い時間をかけて目的に向かう情熱・根性が必要なのだと感じました。大岡先生が講話している様子から、探究者のあるべき姿や姿勢を垣間見ることができたと思います。筑波研修で見学した施設でも似たような体験をしたことがあり、再び体験できると思わずとても嬉しかったです。

今回の講話で資源問題について背景知識を得ることができ、より身近な問題として捉えられるようになりました。今まで日本は資源の乏しい国だと思っていたけど、開発が進めば使える資源がたくさんあることが分かりました。また、日本の資源の状況だけでなく、用いる探査の機械のお話も興味深かったです。質疑応答での「資源がいつなくなるのか」という問いに対して、コストが関わっていると聞き、社会では教科に関わらず、多角的な視点が必要なのだと実感しました。

日常で使っている物質や、地理の教科書でしか知らなかった鉱物がどのように発見されて発掘されているのか細かく知れておもしろかった。高校2年間、課題研究をしたい研修旅行に行ったりして、研究をするのにも多角的な視点が必要だとわかってきたが、資源の分野がこのように様々な分野と関わっていることに驚いた。また、日ごろ見ることができない鉱物を間近で見ることができて、金属は自然界でどのような姿で、どのようにして使われる形になるかがわかって楽しかった。